

決算のポイント

売上収益

IT関連顧客向けの大口案件が一巡したことによる影響で産業機器が大幅減となったことに加え、円高による為替のマイナス影響もあり、前年同期比で減収となりました。

営業利益

主に事業セグメント利益の改善により、前年同期比で増益となりました。

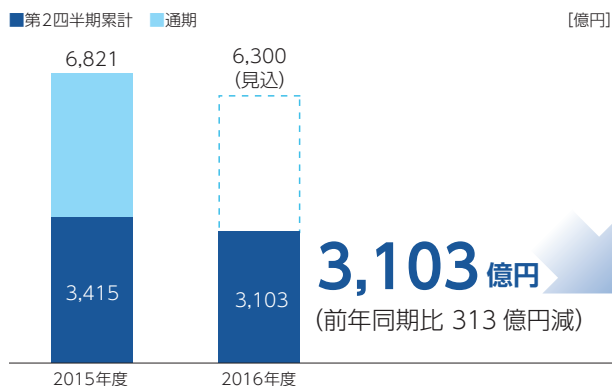
事業セグメント利益

P&S事業を中心にグループ全体で収益性改善に向けた取り組みを推進した効果などにより、前年同期比で増益となりました。

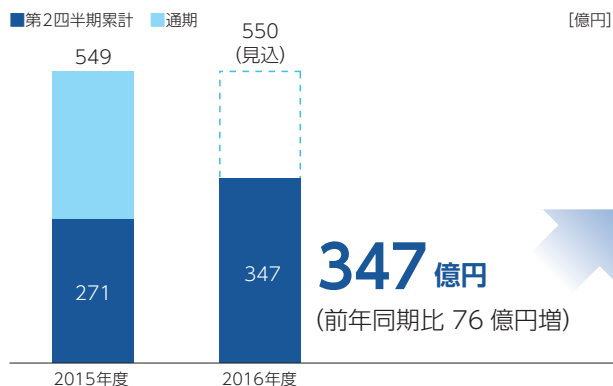
親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益

営業増益に伴い、親会社の所有者に帰属する四半期利益も前年同期比で増益となりました。

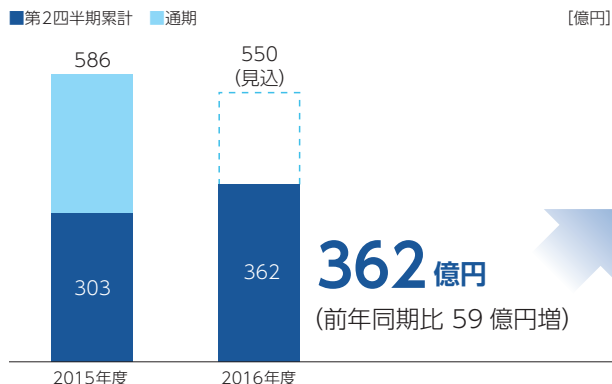
売上収益



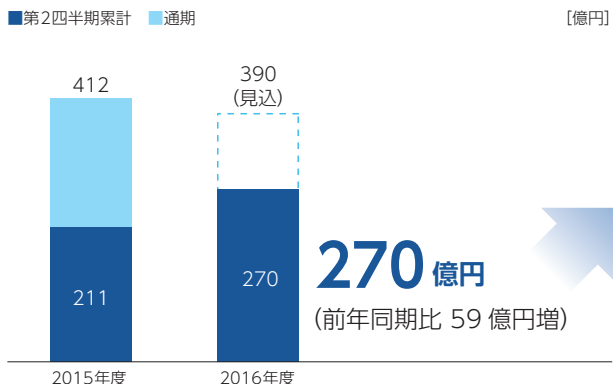
事業セグメント利益



営業利益



親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益

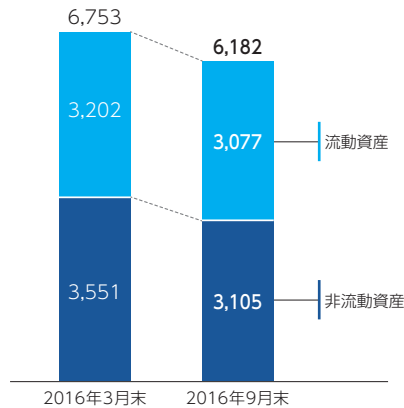


ブラザーグループは、2016年度第1四半期から、国際会計基準(IFRS)を適用しています。そのため、当報告書から売上の計上方法やのれんの会計処理、表示科目の変更をしています。

財政状態計算書

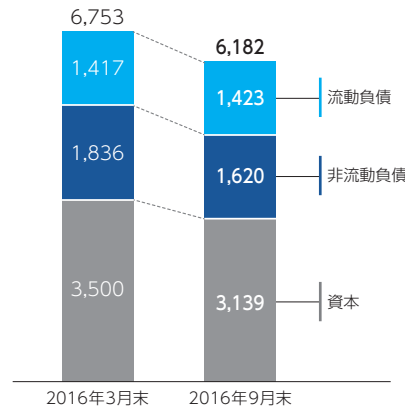
資産の部

[億円]



負債・資本の部

[億円]



決算のポイント

資産合計

円高によるのれん及び無形資産の減少などにより、前連結会計年度末に比べ571億円減少し、6,182億円となりました。

負債合計

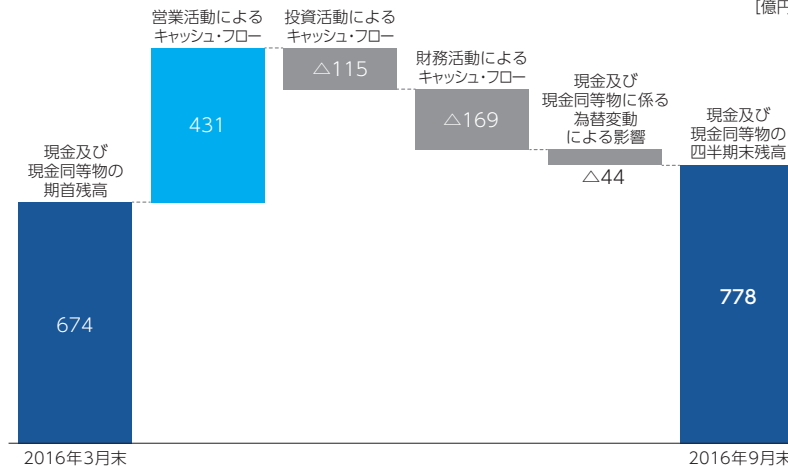
借入金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ210億円減少し、3,043億円となりました。

資本合計

利益剰余金が増加したものの、円高による在外営業活動体の換算差額のマイナスの増加などにより、前連結会計年度末に比べ361億円減少し、3,139億円となりました。

キャッシュ・フロー計算書

[億円]



決算のポイント

営業活動によるキャッシュ・フロー

税引前四半期利益は371億円となり、減価償却費及び償却費170億円など、非資金損益の調整などによる資金の増加があり、法人所得税の支払額51億円などを差し引いた結果、431億円の資金の増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金の返済による支出106億円、配当金の支払額47億円などにより、169億円の資金の減少となりました。